「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

（平成１２年度着手　全学テーマ別評価）

徳　島　大　学

平成１４年３月

大学評価・学位授与機構

◇　大学評価・学位授与機構が行う大学評価

○大学評価･学位授与機構が行う大学評価について

1　評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は，大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう，大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより，①その教育研究活動等の改善に役立てるとともに，②評価結果を社会に公表することにより，公共的機関としての大学等の諸活動について，広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

2　評価の区分

機構の実施する評価は，平成 14 年度中の着手までを段階的実施(試行)期間としており, 今回報告する平成 12 年度着手分については，以下の 3 区分で，記載のテーマ及び分野で実施した。

① 全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）
② 分野別教育評価（「理学系」,「医学系（医学）」）
③ 分野別研究評価（「理学系」,「医学系（医学）」）

3　目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は，大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう，当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため，大学等の設置の趣旨，歴史や伝統，人的・物的条件，地理的条件，将来計画などを考慮して，明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

○全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

1　評価の対象

本テーマでは，大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち，正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について，全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は, 設置者（文部科学省）から要請のあった, 国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」,「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については,「Ⅱ　教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

2　評価の内容・方法

評価は，大学等の現在の活動状況について，過去 5 年間の状況の分析を通じて，次の 3 項目の項目別評価により実施した。

1)　目的及び目標を達成するための取組
2)　目的及び目標の達成状況
3)　改善のためのシステム

3　評価のプロセス

① 大学等においては，機構の示す要項に基づき自己評価を行い，自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。
② 機構においては，専門委員会の下に，専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し，自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い, その結果を専門委員会で取りまとめた上, 大学評価委員会で評価結果を決定した。
③ 機構は，評価結果に対する意見の申立ての機会を設け，申立てがあった大学等について，大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

4　本報告書の内容

「Ⅰ　対象機関の現況」及び「Ⅱ　教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は，当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「Ⅲ　評価結果」は，評価項目ごとに，特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また,「貢献（達成又は機能）の状況（水準)」として, 以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

・　十分に貢献（達成又は機能）している。
・　おおむね貢献（達成又は機能）しているが，改善の余地もある。
・　ある程度貢献（達成又は機能）しているが，改善の必要がある。
・　貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり), 大幅な改善の必要がある。

なお，これらの水準は，当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり，相対比較することは意味を持たない。

また，総合的評価については，各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが，この評価に該当する事柄が得られなかったため，総合的評価としての記述は行わないこととした。

「Ⅳ　評価結果の概要」は，評価結果を要約して示している。

「Ⅴ　意見の申立て及びその対応」は，評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について，その内容とそれへの対応を示している。

5　本報告書の公表

本報告書は，大学等及びその設置者に提供するとともに，広く社会に公表している。

Ⅰ　対象機関の現況

（１）機関名及び所在地
徳島大学
徳島県徳島市新蔵町 2 － 24

（２）学部・研究科構成
（学部）

総合科学部	人間社会学科
	自然システム学科
医学部	医学科
	栄養学科
歯学部	歯学科
薬学部	薬学科，製薬化学科
工学部	建設工学科，機械工学科，化学応用工学科，電気電子工学科，知能情報工学科，生物工学科，光応用工学科

（研究科）
人間・自然環境研究科（修士課程）
医学研究科（博士課程）
歯学研究科（博士課程）
栄養学研究科（博士前期課程，後期課程）
薬学研究科（博士前期課程，後期課程）
工学研究科（博士前期課程，後期課程）

（３）教育サービスを行っている附属施設
附属図書館，大学開放実践センター，分子酵素学研究センター，地域共同研究センター，総合情報処理センター，ゲノム機能研究センター，アイソトープ総合センター，医療技術短期大学部

（４）学生総数（平成 13 年 7 月 1 日現在）

学部学生	5,792 人
大学院学生	1,455 人
医療技術短期大学部	436 人
合計	7,683 人

（５）教員総数（平成 13 年 7 月 1 日現在）

教授（学長を含む）	264 人
助教授	190 人
講師	128 人
助手	304 人
合計	886 人

Ⅱ　教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

１．教育サービス面における社会貢献に関するとらえ方

（１）社会貢献活動全体の位置付け

徳島大学では平成 12 年 3 月 17 日に「徳島大学の 21 世紀に向けての戦略」を策定し，その中で社会貢献活動の理念，目標及び計画を明らかにしている。

本学の 21 世紀の理念は,「学生の多様な個性を尊重し，人間性に富む人格の形成を促す教育を行い，優れた専門能力を身につけ,進取の気風に富む人材の育成をめざす。知の継承と創造に挑み，独創的で，実り多い研究を推進し，豊かで健全な未来社会の創成に貢献する。国際化と地域重視の時代に向けて，地域社会と世界を結ぶ知的ネットワークの拠点として，平和で文化的な国際社会の構築と地域社会の活力ある発展に寄与する。」ことである。

本学は，この理念を具体化するために「社会に開かれた大学」として,「社会人入学，大学院の開放及び公開講座等を拡充し,情報公開により産学官共同研究の推進,国際交流の拡大に力を注ぎ，また，地域にあっては，知的ネットワークの核として，社会的貢献を果たす。」ことを掲げている。

（２）教育サービス面における社会貢献活動のとらえ方

本学は「社会貢献活動全体の位置付け」で記したような広範な社会貢献活動を行っているが，それらの活動の中で「教育サービス」が極めて大きな比重を占め，教育サービス面における社会貢献活動の中心を「地域社会との連携」に置き，1）大学開放事業の拡大，2）個人の生涯設計に応じた多様な履修形態の開発，3）企業や社会人の要望に的確に応えた教育プログラムの開発，4）大学施設の開放の活動を行っている。

大学開放実践センターは「従来の“教育”と“研究”の両輪に加えて，それらとの密接な関連の中で“大学開放”という第 3 の柱を育てていくことが重要である。」との認識のもとに，さまざまな価値観や生活スタイルを持つ社会人の多様なニーズに応えるため数多くの公開講座を準備している。公開講座は全学の教官が担当しているが，特に総合科学部の教官が積極的に担当している。

医学部，歯学部，薬学部は，地域住民の健康に寄与する臨床医師，臨床歯科医師薬剤師その他の保健医療関係専門職に対し，日進月歩の著しい分野にあって良質の保健医療を提供するために必要な知識・技能を伝達すること，及び一般社会人に対し，疾病の予防や健康増進に必要な知識・情報を伝達すること，これらが重要であると位置付けている。

工学部及び薬学部は，社会の将来を担う小・中・高校生等に対する教育サービスが重要であるととらえ，大学施設の開放による社会貢献活動を展開する。

（３）具体的な教育サービス面の活動

○　全学的に行われる教育サービス

公開講座，科目等履修生制度，聴講生制度，図書館開放

○　全学的な方針の基に各部局で行われる教育サービス

講演会，研修，セミナー，オープンカレッジ，附属薬用植物園公開，出張講義，情報提供，指導・相談

２．教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

（１）全学的な目的・目標

ア　目的

本学は，地域社会と世界を結ぶ知的ネットワークの拠点として，平和で文化的な国際社会の構築と地域社会の活力ある発展に寄与することを通じて，社会に貢献することを目的としている。この目的のうち，教育サービス面における社会貢献としては次の 3 点である。

○　世界と地域を結ぶ知的ネットワークの中心として，地域社会の活力ある発展に寄与すること。

○　学部構成等の特色を積極的に生かし，社会の要請に応えること。

○　社会人の学習機会を一層拡大・充実すると共に，大学にふさわしい高度で体系的かつ継続的な学習機会を提供すること。

イ　目標

本学では，上記の目的を実現するために,「公開講座，講演会，研修会などの大学開放事業の拡大」,「個人の生涯設計に応じた多様な履修形態の実施」,「企業や社会人の要望に的確に応えた教育プログラムの開発」,「大学施設の開放」,「研究成果等の様々な情報の公開」等の実施を目標に掲げている。

（２）各部局等の特徴的な社会貢献活動の目的・目標

１）公開講座の開設（大学開放実践センター）

市民の生涯学習に資するために,「市民の学習ニーズを満たし，教養レベルを高める。」,「企業や諸団体の教育ニーズを満たし，その技能を高める。」,「地域の事象，国際的な事象等への関心を高め，大学と市民社会との関係を多角化する。」及び「市民に大学の知的財産を開放

し学問上の成果を普及する。」の 4 点を目標に掲げて活動している。

２）研修・セミナー等（医学部及び医学部附属病院）

○　疾患発症予防を中心とした患者への医療教育を提供する。

○　医療関係者に教育・研修の場や医療情報・技術を提供する。

○　医学領域研究者に研究の場や医学研究情報を提供する。

○　市民を対象に，医療の選択や疾患予防に必要な医学情報を提供する。

○　産，官，病院が一体となり，医療の充実を目指して先進的医療・治療薬開発に貢献する。

○　入院患者，外来患者及び付添者の心の安らぎや医療知識を深めてもらうための施設を充実する（例：患者図書室）。

３）講演・研修・技能開発等（歯学部及び歯学部附属病院）

○　臨床歯科医師その他の保健医療関係者に対し，良質な歯科保健医療の提供に必要な情報や技術を提供する。

○　歯科医学及び関連領域研究者に対し，最新かつ正確な歯科医学研究情報を提供する。

○　高校生や一般社会人に対し，歯科医療の選択（informed decision）及び歯科保健に必要な知識や情報の提供を行い，歯科医療への信頼関係を構築する。また，将来の歯科医療の質を担保するために歯科医学生の卒前臨床実習に協力してもらえる土壌を構築する。

○　保育園・幼稚園児，小・中・高校生，一般社会人，高齢者等に対し，口腔保健に必要な知識と技能を提供することにより 8020（80 歳で自分の歯が 20 本）を目指して自らの力で口腔保健の維持増進を図れるように努める。

４）卒後教育公開講座の開催（薬学部，医学部栄養学科）

○　不断の研修が求められている社会人薬剤師や社会人管理栄養士を対象に卒後教育公開講座を開催して，広く生涯学習の場を提供する。

○　講座の内容は医薬品情報や臨床栄養管理などに関する最新の話題提供を中心とし，社会から信頼される専門家の育成と技能の向上を目指す。

５）オープンカレッジ（工学部）

○　「科学体験フェスティバル」を開催して，県内の子供たちに科学実験に参加することを通じて，「あれ？不思議だなあ」とか「なるほど！」と言った科学の楽しさや不思議さを知ってもらう。

　また，「体験大学院」を開催して，高校生を対象に大学院レベルの研究活動を公開し，将来の進路選択のための情報を提供する。

○　体験学習を通して，21 世紀を担う青少年の科学に対する心を育成するとともに，未来を開く新しい技術の創造やハイテクを活用した研究など，科学に対する関心を高め，ひいては地域社会の科学技術の振興に貢献することを目指す。

６）附属図書館の開放

市民の生涯学習への要求に応えるために，「図書館資料の閲覧及び貸出の実施」や「所蔵している貴重資料のデジタル画像のホームページ上での公開」などを行い学習機会の提供に取り組む。

７）附属薬用植物園開放と薬草教室開催（薬学部）

小，中学生を含めた一般市民を対象にして，「薬草に関する知識とその使用方法を正しく伝えることにより健康への関心を一層高めてもらうこと」，「薬用植物を実際に見，ふれることによって植物への関心を高め，自然を大切にする心を養ってもらうこと」，「市民との触れ合いを通して大学を身近に理解してもらうこと」の 3 点を目標に附属薬草園の開放と薬草教室を随時開催する。

８）科目等履修生等の受入

一般市民，社会人等の生涯学習，教員免許取得などのため，本学の学部及び大学院が開設する授業科目を履修できるように科目等履修生，研究生等として受入れ，社会的な教育ニーズに応える。

９）その他

○　高校生を対象に，看護する体験を通じて看取りの心を養うために「ふれあい看護体験」を実施し，医療現場の理解を深めるための機会と場を提供する。

○　知的障害者に大学で学ぶ場を提供するために「オープンカレッジ」を開催する。

○　市民の身近なスポーツ活動の場として，地域住民に大学の体育施設を開放する。

３．教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

本学では，昭和 61 年，学内共同教育研究施設として大学開放実践センターを設置して以来，全学の協力を得て，公開講座を中心とした事業活動を実施し，市民の多様かつ高度な学習ニーズに対応してきている。平成 10 年度以降の公開講座開設数は国立大学中第 1 位を続けている。

総合科学部は，大学開放実践センターにおける公開講座を多数担当すると共に平成 11 年度から，全学共通教育科目を開放科目として，社会人に公開している。さらに，全学共通教育及び専門教育の科目等履修生を受入れており，この中に社会人が多く含まれている。このように勉学意欲旺盛な社会人に対して，教養や知識のレベルの向上，教員免許等の資格取得を支援している。

医学部及び医学部附属病院，歯学部及び歯学部附属病院では，臨床医師・管理栄養士・臨床歯科医師その他の保健医療関係者に対し良質な医療・歯科医療の提供に必要とされる情報・技術を提供するため，専門領域別セミ

ナー，研究会，講演会，講習会などを実施し，医学・栄養学・歯科医学及び関連領域研究者に対し最新かつ正確な医学・歯科医学研究情報を提供するため，専攻生，科目等履修生などの形で研究への参加や講義の聴講を，また，外国人研究者や留学生を受入れている。一般社会人に対しては，医療・歯科医療の選択及び疾患の予防に必要とされる知識や情報を提供することにより医療・歯科医療との間の信頼関係を構築するため，公開講座，患者の会の設立・運営及びテレビ，新聞等のマスコミを通じての医療・歯科医療相談，医療・歯科医療情報の提供などを行っている。これらの他，医学部附属病院では地域医療ネットワークの中心となり医療コーディネイターとしての役割を果たしており，歯学部附属病院では幼児から高齢者に至る人々に対し口腔保健自己管理能力獲得を推進するための活動が続けられている。

薬学部における取組として特徴的なものは，薬学部卒後教育公開講座の開催と薬学部附属薬用植物園開放及び薬草教室開催である。前者は，大学を卒業後，勉強する機会の少ない病院，薬局，企業及び公務員などの社会人薬剤師を対象に，広く生涯学習の場を提供し，社会人薬剤師の資質向上をはかり，社会から信頼される薬剤師の育成を目指したものである。後者は，小・中学生を含めた一般市民を対象に，薬草に関する知識とその使用方法を正しく伝えることにより健康への関心を一層高めること，植物への関心を高めて，自然を大切にする心を養ってもらうこと，市民との触れあいを通して大学を身近に理解してもらうことを目的としたものである。

工学部では，オープンカレッジ活動として，「科学体験フェスティバル」と「体験大学院」を夏季休業中の 2 日間にそれぞれ実施している。「科学体験フェスティバル」は小・中学生を対象とし，実験主体の約 40 のテーマを設け，科学の面白さや楽しさを知ってもらうための参加型のイベントである。「体験大学院」は，高校生を対象とし，博士前・後期課程の 13 専攻が合計 17 のテーマを設け，実験や実習を通じて最先端の技術と出会う場を提供するとともに，大学院での研究を体験してもらうイベントである。

地域共同研究センターは，地域産業界の技術力向上や製品開発活動を支援する目的で，最先端技術の移転研修，同センター設置の機器の講習会等を実施し，最先端技術に対する教育サービスに取り組んでいる。総合情報処理センターでは平成 12 年度末に超高速ネットワークとデジタルコンテンツ作成・発信システムを導入した。本システムの設置により遠隔教育や高度な情報発信が可能になり，各部局等における教育サービス面における社会貢献活動を積極的に支援する体制が整いつつある。附属図書館では，市民の生涯学習への要求に応えるため，図書館資料の閲覧や貸出の実施，貴重資料のデジタル画像のホームページ上での公開などにより学習機会の提供に取り組んでいる。

以上のように本学においては全学及び各部局に自己点検・評価委員会が設置され，教育サービス面における社会貢献について，目的・目標を明確に定めてその実現に取り組んでいる。また，それらが効果的に実施されているかを内部ならびに外部評価するための体制や改善のためのシステムが整備され，機能している。今後，全学の自己点検・評価委員会が主体となって各部局の委員会活動を全学的視点から点検し，有機的に結びつけ，より効果的な活動となるよう改善する余地がある。

Ⅲ　評価結果

１．目的及び目標を達成するための取組

徳島大学においては，「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として，公開講座，研修，セミナー，講演会，講習会，研究会，卒後教育公開講座，科学フェスティバル，体験大学院，図書館開放，附属薬用植物園開放，薬草教室，科目等履修生等の受入れ，医療・歯科医療相談，ふれあい看護体験，知的障害者に対するオープンカレッジなどが行われている。

ここでは，これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し，特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し，目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

◇特に優れた点及び改善点等

大学開放実践センターを中心として行われる各種の取組について，各学部とも協力し多彩な取組が提供されている点は，全学的な実施体制として優れている。

大学開放実践センターにおける公開講座は，文化・社会，健康・スポーツ，科学・技術，外国語・外国事情，芸術，リカレント，インターネット，課題研究等の多岐にわたるジャンルが提供されており，受講対象を有職者や若年層にも広げるため，リカレント教育プログラムの開発にも着手するなど，サービス対象の拡大に向けて積極的に取り組まれている。

また，公開講座部会や調査・研究部会等の作業部会（5部会）を設け，受講者アンケート調査や県民学習調査を定期的に実施したり，センター受講者の同窓会である「六一会」と共同で，次年度事業計画に関する要望等を聴取する懇談会を開催（年１回）するなど市民の要望の把握とその充足に努めている。更に，「出張講座連絡協議会」では，県内各地の自治体等との連携により県民の要望への対応が図られている。

これらの点から，サービス享受者のニーズを反映した内容が提供されており，市民の多様かつ高度な学習ニーズに対応した取組として特に優れている。

医学部及び医学部附属病院においては，臨床医や保健医療関係者に対して，専門領域セミナー，研究会，講演会，講習会等を実施している。テーマの選定は代表幹事会で参加者の要望を基に行われ，良質医療に必要な情報・技術が提供されている。開催時期を週末に多く設定することで参加者の便宜を図っており，パンフレットの配布などを通じた広報も行われている。

医学関連領域研究者に対しては，専攻生，科目等履修生などの形で研究参加や講義聴講，各専門領域での著名な講師による特別講義，セミナー，研究会等が実施されており，最新かつ正確な医学研究情報の提供が図られている。特に大学院特別講義は，講演内容の質や開催数（ほぼ毎週１回）に配慮がなされている。

また，地域テレビ局での医療相談，新聞社主催の公開市民講座での講演と紙上講演などには数多くの教官が出演しており，多数の社会人に医療の選択，疾患予防の知識や医学情報を幅広く提供している。テレビでの医療相談や新聞社主催の公開市民講座は，それがテレビや新聞で広く紹介されるという副次的な効果も認められる。

また，患者及び付添人のアメニティを考え患者図書室を開設し，患者の病院生活のＱＯＬの向上を図っている。

これらの取組は，サービス享受者の医療に関するニーズを考慮し，広く社会に提供されている点で，医学医療の信頼関係構築に向けた取組として優れている。

歯学部及び歯学部附属病院においては，臨床歯科医師その他の保健医療関係者を対象とした研修・セミナー等の開催，歯科医学及び関連領域研究者に対する最新かつ正確な歯科医学研究情報の提供，一般市民を対象とした公開講座・講演会・医療相談等の実施，保育園・幼稚園児，小・中・高校生，一般社会人，高齢者等に対する口腔保健に必要な知識と技能の伝達等が実施され，医療関係者のみならず幼児や一般市民等に対してもインフォームド･デシジョン等について必要な知識や情報の提供を図るなど積極的に展開されており，歯科医療の信頼関係構築に向けた取組として優れている。

薬学部主催の卒後教育公開講座は，病院，薬局，企業及び公務員などの社会人薬剤師を対象に開催されている。毎回医師，薬剤師及び本学部の教官など３名の講師によるスライドを使った講演と質議応答を行い，講演要旨集を準備するなど内容がよく理解できるように工夫されている。講演の内容は，最新の医療・薬品情報や薬物治療，カウンセリングの技法など医療現場に直結した問題にとどまらず，薬学基礎研究の最先端の話題を分かりやすく解説したものとなっている。本講座の受講者には，日本薬剤師研修センター及び日本病院薬剤師会によって，研修認定薬剤師として必要な単位を与えることが認められていることから，講座の内容は社会人薬剤師の資質向上を図るものとなっている。

医学部栄養学科では，医学部附属病院栄養管理室と協力して，病院，企業及び公務員などの社会人管理栄養士を中心に医師等を対象に徳島臨床栄養研究会を開催して

いる。研究会は栄養学科教官，社会人管理栄養士，医師らを話題提供者として開催し，臨床栄養管理に関する事例検討，最近の進歩，トピックス，給食のあり方，食品機能などが話題となっている。また，最近は日本糖尿病療養指導士認定試験も視野に入れた解説を加えるなど，管理栄養士の幅広い能力の向上を図るものとなっている。

これらの取組は，意図したサービス享受者に対する学習機会の拡充並びに最新知識の提供や資質の向上に向けた取組として優れている。

オープンカレッジの一環として行われている「科学体験フェスティバル」は，工学部が主催し，徳島県内の教育関係機関及び報道機関各社の後援，地元企業の協賛により夏休みを利用して開催されている。このフェスティバルを運営し，出展しているのは，工学部の教官に加え，小学校及び中学校の理科担当教諭や民間企業のエンジニアで，大学以外の教育機関等の関係者が参加している点で特色がある。

「体験大学院」では，大学院工学研究科の教官が高校生に対し実験や実習を通じて大学院における最先端の研究を体験させ，新しい技術の創造やハイテクを活用した研究が地域社会や国際社会にどのように貢献しているかを考える機会を与えている。

これらの取組は新聞に取り上げられるなどニュース性も高く，人々の理科離れに対応した企画となっており，地域社会への科学技術の関心の喚起並びに教育力の向上に向けた取組として優れている。

「ふれあい看護体験」は，高校生に対し入院患者の身の回りの世話，対話，実際に向き合った看護等を体験させることにより，必要な知識と技能の伝達等がなされており，医療現場についての理解を深め，患者とのふれあいを通じて看護の心を養うなどの学習機会を提供している点で優れている。

◇貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

２．目的及び目標の達成状況

ここでは，「１．目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し，特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し，目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

◇特に優れた点及び改善点等

「科学体験フェスティバル」は，平成 9 年度の第 1 回目から約 40 テーマによる出展が行われ，毎年約 1 万人の参加者を安定して得ており評価できる。また，参加者に対するアンケート結果をみると「大変おもしろかった」，「面白かった」と答えた人の割合は，毎年 80 %を上回っており，満足度が高く成果を得ている。

「体験大学院」は，平成 8 年度から平成 11 年度まで約 90 ～ 150 人であった参加者数が，12 年度には 273 人と急増しており，参加者に対するアンケート調査では，ほとんどの参加者から「工学に非常に興味をもった」，「進路決定の参考になった」との回答を得ていることから，成果を得ている。

大学開放実践センターにおける公開講座は，センター設置後約 15 年間で，765 講座が開講され，多数の受講者を毎年安定して受け入れている。また，近年のアンケート調査では，満足度や今後の受講希望について 8 割以上の参加者が良い評価を示していることから成果を得ている。

附属薬用植物園の開放と薬草教室は，定期開放（一般市民対象の薬用植物園開放（春，秋），小・中学生（父兄同伴可）の夏休み薬草教室の開催）及び随時公開（婦人会など 20 ～ 30 人の団体に対する公開）が実施され，定期開放については毎回定員（60 人程度）の約 5 倍の応募者数を得ており，随時公開についても頻繁に行われている点で評価できる。

また，附属薬用植物園の開放は新聞，テレビ，ラジオに何度も取り上げられ，徳島県民の認知度も高い。特に，「徳島から消えゆく植物たち」をテーマにした際，多くのマスメディアに取り上げられ，この報道以降，附属薬用植物園に絶滅危惧植物の保存を求めて植物愛好家から植物寄託があるなどの反響を得ており，成果を得ている。

◇達成の状況（水準）

目的及び目標が十分達成されている。

3．改善のためのシステム

ここでは，当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を，「改善のためのシステム」として評価し，特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し，システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

◇特に優れた点及び改善点等

大学開放実践センターにおいて，価値的評価を加味した年次報告書「徳島大学大学開放実践センター年報」の刊行や自己点検・評価部会を中心とした経営指標，プログラム評価指標の検討などが行われている点は，事業活動の点検・評価を行い改善に結びつけるためのシステムとして優れている。

また，定期的な受講者アンケート調査の実施，受講者との懇談会，自治体等との連絡協議会の開催により，地域のニーズが把握されており，これに加えて，日常的には「受講者カード」を常備し，毎日の授業評価等を自由に提出できるシステムを整備している点は，学外者の意見等を把握するシステムとして特色がある。

全学及び各部局には自己点検・評価委員会が設置されており，教育サービス面における社会貢献についての目的・目標を明確に定め，その実現に向けて取り組まれている。また，それらが効果的に実施されているかについて内部及び外部で評価するための体制が整備されている。中でも，歯学部及び歯学部附属病院においては，外部評価者の講評は全構成員に直接周知されるとともに，内部評価・外部評価はその結果を冊子にして配布して改善に結びつけており，改善のためのシステムとして優れている。

オープンカレッジの一環である「科学体験フェスティバル」及び「体験大学院」においては，活動の状況や問題点を把握し，改善を行うための組織が設置されている。

「科学体験フェスティバル実行委員会」には，半数以上の学外者が含まれており，毎年イベントを実施した約1ヶ月後に反省会をもち，アンケート結果に基づく評価の確認，さらに各出展者の意見を踏まえた改善点について議論を行っている。

「体験大学院実行委員会」では，イベント時に実施されたアンケート結果を実行委員にフィードバックし，改善に役立てている。また，高等学校にも開催日や生徒の参加等に関する意見や要望を聞き，企画，運営に反映させている。

これらは，学外者の意見等を改善に結びつけるシステムとして優れている。

◇機能の状況（水準）

改善のためのシステムが十分機能している。

Ⅳ　評価結果の概要

１．目的及び目標を達成するための取組

◇特に優れた点及び改善点等

大学開放実践センターを中心に，各学部とも協力して多彩な取組が提供されている点は，全学的な実施体制として優れている。

大学開放実践センターにおける公開講座は，サービス対象の拡大を図り，サービス享受者の要望を取り入れつつ実施されていることから，サービス享受者のニーズを反映した内容が提供されており，市民の多様かつ高度の学習ニーズに対応した取組として特に優れている。

医学部及び医学部附属病院における各種の取組は，サービス享受者の医療に関するニーズを考慮し，広く社会に提供されている点で，医療の信頼関係構築に向けた取組として優れている。

歯学部及び歯学部附属病院の各種取組は，医療関係者のみならず幼児や一般市民等にも積極的に展開されており，歯科医療の信頼関係構築に向けた取組として優れている。

薬学部や医学部栄養学科における社会人薬剤師や社会人管理栄養士を対象とした取組は，学習機会の拡充並びに最新知識の提供や資質の向上に向けた取組として優れている。

「科学体験フェスティバル」,「体験大学院」は，地域社会への科学技術の関心の喚起並びに教育力の向上に向けた取組として優れている。

「ふれあい看護体験」は，医療現場についての理解を深め，患者とのふれあいを通じて看護の心を養うなどの学習機会を提供している点で優れている。

◇貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

２．目的及び目標の達成状況

◇特に優れた点及び改善点等

「科学体験フェスティバル」は，約１万人の参加者を安定して得ており，アンケート結果から参加者の満足度も高く成果を得ている。

「体験大学院」は，12 年度から参加者が急増しており，アンケート結果から参加者の満足度も高く成果を得ている。

公開講座については，多くの講座が用意され，安定した受講者数を得ており，参加者の満足度も高く成果を得ている。

附属薬用植物園開放と薬草教室は，定員を超える応募者を得ており，臨時公開も頻繁に開催されている点で評価できる。また，マスメディアに何度も取り上げられていることから認知度も高く，植物愛好家から反響を得るなどの成果を得ている。

◇達成の状況（水準）

目的及び目標が十分達成されている。

３．改善のためのシステム

◇特に優れた点及び改善点等

大学開放実践センターにおいて，事業活動の点検・評価を行い改善に結びつけている点は優れている。また，アンケート調査，受講者との懇談会及び自治体等との連絡協議会の開催に加え，「受講者カード」を常備し，毎日の授業評価等を自由に提出できるシステムを整備している点は，学外者の意見等を把握するシステムとして特色がある。

歯学部及び歯学部附属病院では，内部評価・外部評価の結果を全構成員にフィードバックして改善に結びつけており，改善のためのシステムとして優れている。

「科学体験フェスティバル」及び「体験大学院」において，学外者を含む実行委員会を設置し，イベント参加者の意見等を企画・運営に反映している点は，学外者の意見等を改善に結びつけるシステムとして優れている。

◇機能の状況（水準）

改善のためのシステムが十分機能している。